


 TOPICS
2

トピックス…②

牛乳値上げに理解求める

マスコミ向け緊急説明会を開催

本会議は8月7日（東京会場）と8日（大阪会場）の両日、酪農経営の窮状を訴え、牛乳小売価格改定に理解を求めるため、マスコミ向けの緊急説明会を開催した。説明会には両会場合わせて100名以上のマスコミ関係者が出席した。

東京会場の説明会で主催者あいさつした本会議の迫田専務は、「アベノミクスによる景気回復が叫ばれているものの、生活者の所得向上は一部に限られ、依然として大手量販店を中心に低価格志向が続いている。こうした中、円安の影響で食料品や公共料金の値上げが相次いでおり、牛乳も大手乳業3社が10月1日出荷分から1～4%程度値上げすることを発表した。生活者の中には『なぜこの時期に牛乳を値上げしなければならないのか』と疑問を抱く方も大勢いるかと思う。しかし、厳しい経営環境の下で酪農生産基盤を維持するには、生乳価格の引き上げが必要で、そのためには牛乳価格の改定をお願いしなければならない。こうした牛乳値上げの背景などを理解してもらえるように、説明会の内容を流通関係者や生活者に丁寧に伝えてほしい」と協力を求めた。

続いて本会議の内橋事務局長が、資料「深刻さを増す日本酪農」に基づき、穀物価格の急激な上昇や円安進行による飼料価格高騰等で、生乳生産費が大幅に上昇し、酪農経営が大打撃を受けている現状を説明した。その上で、「こうした酪農の窮状に大手乳業は理解を示し、10月から飲用乳価を1kg当たり5円引き上げることを指定団体と合意した。牛乳の卸売価格も10月から引き上げることになっている。景気回復が不十分な中で生活者に負担増を強いることになるが、酪農家が今後も経営を継続し、安全・安心な生乳生産に取り組めるよう、牛乳値上げをご理解いただき、変わらぬ牛乳飲用もお願いしたい」と述べた。

さらに、(株)資源・食糧問題研究所代表の柴田明夫氏が「世界的な食糧事情からみた、日本の酪農及び牛乳・乳製品市場について」と題して講演した。柴田氏は、「日本の消費者はこれまで海外の食糧事情の中で、安い価格で良質な物をいくらでも市場から調達できた。しかし、今やそれが円安などの影響で保証されなくなっており、国内生産の重要性は増している。に

もかかわらず、適正価格を無視したような行き過ぎた低価格志向が根付いている。生産費上昇分のある程度の価格転嫁が必要ではないか」と強調した。また、中国などでの需要拡大や異常気象の常態化で、世界の穀物価格はゆるやかに上昇するとの見通しを示し、生乳生産費は今後も高い水準で推移する恐れがあると指摘した。

最後に、栃木県那須塩原市で酪農を営む人見みり子・幸雄夫妻が、配合飼料などの生産資材価格高騰にともなう酪農経営の深刻な状況を説明した。みり子夫人は、「全国の酪農家は、経営している地域は違っても、みんな知恵と工夫を振り絞り、安心・安全でおいしい牛乳を消費者に届けたいと頑張っています。牛乳は国産100%で、栄養的にも優れた自然の恵みの飲み物です。世界的な人口増加や異常気象が常態化する中で、自分の国で食べる物を、自分の国で賄うことはとても大切なことではないでしょうか。次代を担う若い酪農家や後継者が希望を持って、日本の酪農を守っていけるよう、このたびの飲用乳価の値上げに関して、消費者の皆様のご理解をいただければと思います、この場に立たせていただきました。どうぞ、ご理解をいただき、今後とも、変わらず牛乳を飲んでください」と訴えた。大阪会場では、兵庫県で酪農を営む花房享一郎氏が生産現場の声を伝えた。